世界秩序（World Order）序説[1)]
—類型論的アプローチ—

鍋　島　弘治朗

1．はじめに

(1)　a．男女同権（cf. *女男同権）
　　b．young and old（cf. 老いも若きも）
　　c．東西南北（cf. North, South, East and West）

Cooper and Ross（1975）の先駆的研究は，英語において対となる概念や関連の強い概念からなる複合語や語の併置の際，どのような順番になるのかを網羅的に検討し，その音韻的制約，意味的制約を検討したものであった。この研究を，Cooper and Ross の論題は(多分，シャレであろうが)，世界秩序(World Order）と呼んだ。これは誤解を生みやすい名前であるが，ある意味で順序（Order）は社会文化の揺るがざる序列として秩序（Order）を形成している。本稿の論題には，Cooper and Ross の先駆的研究に敬意を表するとともに，文化的世界構築としての「秩序」を言語の「順序」の中に見るという意味で「世界秩序」という用語を敢えて使用するものとする。

さて，世界秩序（言い換えれば自然界における順序）の研究は，多言語を比較することによってその真価を発揮する。それは，世界に存在する多数の順序が，どれくらい普遍的なのか，どれくらい文化依存的なのかに対する視座を提供してくれるからである。世界秩序の研究を類型論的に敷衍することの意義と発展可能性を以下に列挙する。

1．言語の線条性に表れる意味世界の順序を記述することは究極的に文法（SVOなど）の動機づけを探る営みにつながる。
2．言語に反映した順序が類型論的に安定しているとすれば，そこにはなんらかの身体的または環境的な動機づけが存在することが予想される。つまり，認知の制約を探る営みにつながる。
3．異なる言語が系統的に異なる語順を使用する場合，そこに言語文化固有の理由がある可能性が高い。線条的類像性に関する対照研究は，言語の普遍性と文化相対性の問題の検討に貢献する。
4．認知（意味）と言語（形式）という異なる領域を〈線〉というイメージ・スキーマ[2)]で結ぶ線条的類像性は，メタファー的な写像の類例と考えられ，メタファーがいかに文法に反映するかを研究する鍵となる。

鍋島（2004）はこの視点から，世界秩序を日英対照で研究し，日英の言語データから22の原則（表1）を見出している。同論文では，東西南北など，例外や謎と思われる語順がなぜ存在するのかを詳細に検討し，原則同士の衝突が解消される機構はどのように構築すればよいかに対する提案が述べられているので詳しくはそちらも参照していただきたい。

本稿は，これをさらに多種の言語に広げ，汎言語的立場または類型論的立場から研究するというプロジェクトの最初の報告である。言語としては，日本語，英語のほか，フランス語，セルビア語，タイ語，中国語，韓国語[3)]を対象とした。

1．BEFORE-AFTER〈(時間的）前後の原則〉
2．FRONT-BACK〈(空間的）前後の原則〉
3．UP-DOWN〈上下の原則〉
4．LEFT-RIGHT〈左右の原則〉
5．VERTICAL-HORIZONTAL〈縦横の原則〉
6．IN-OUT〈内外の原則〉

7．OPEN-SHUT〈開閉の原則〉
8．CENTER-PERIPHERY〈中心周辺の原則〉
9．GOOD-BAD〈善悪の原則〉
10. HERE, NOW, I〈「今，ここ，私」の原則〉
11. DIVINE-HUMAN〈神の原則〉
12. OLD-YOUNG〈親子の原則〉
13. MALE-FEMALE〈男女の原則〉
14. AGE-SEX〈年齢性別の原則〉
15. COME-GO〈行き来の原則〉
16. LARGE-SMALL〈大小の原則〉
17. PUBLIC-PRIVATE〈公私の原則〉
18. GENERAL-SPECIFIC〈一般特殊の原則〉
19. SALIENT（intense）〈顕現性の原則（強い刺激）〉
20. SALIENT（active power）〈顕現性の原則（能動性）〉
21. SALIENT（one-many）〈顕現性の原則（単複）〉
22. SALIENT（solid）〈顕現性の原則（固体性）〉

表1．世界秩序に関する22の原則（鍋島2004）

なお，世界秩序（自然界における順序）の研究は，大きくは類像性の研究範疇に入る。類像性（Iconicity）は，これまでも幅広く研究され（Haiman, 1985a, 1985b; 池上，1992; 大堀，1991，1992a，1992b）ているが，世界秩序はその中で特に，線条的（Linear）な類像性を取り上げた研究といえる。

(2) Veni, vidi, vici（来た，見た，勝った）
(3) a．morning and evening　　b．朝晩
(4) a．up and down　　b．上下
(5) a．man and woman　　b．男女

類像性に関して有名な例である(2)では言語の順序が出来事の順序に従っている。音声言語は時間的，文字言語はテキスト的な線条性を有するため，効率のよい情報伝達（動機づけられた情報伝達）のためには，意味世界のなんらかの順序や方向性は，言語の線条性に写像されることが望ましい。(3)〜(5)の例では，時間的関係，空間的関係，社会的関係が言語の線条性に写像されている。

さらに，意味世界の順序は，言語文化によって異なることも考えられる。(3)〜(5)の例では，日本語と英語の順序が同じであったが，(6)や(7)のように，日本語と英語が異なる例も存在する。

(6) a．plants and animals　　b．動植物

(7) a．small, medium, and large　　b．大中小

今回の5ヶ国語，総計7カ国語のデータを元にした研究から重要な点としては以下の二点がわかった。

①文化圏による結果の似通りが大きい。（特に中国語，韓国語，日本語，および英語とフランス語）

②時間的前後，上下，内外，善悪，動作主，単複の6つの順序が言語を通して非常に安定性が高かった。

さて，本稿の構成は以下の通りである。本第1節に続き，第2節では，類像性研究の先行研究を簡単にまとめる。第3節では，今回の調査の形式と手順に関してまとめた後，22の原則に従ってデータと傾向を紹介する。第4節が全体のまとめである。

2．先行研究

本節では，先行研究としてまず，主にCooper and Ross（1975）を簡単に紹介する。次に，これを受けた鍋島（2004）の用例と議論の一部を紹介する。

自然界の順序がどのように言語の順序に反映されるかを検討した先行研究の主要なものには，Anderson（1998），Cooper & Ross（1975）がある[4)]。両者とも本稿と似た企図であるが，後者の方が圧倒的に用例数が多い。しかし，後者の場合においても，英語のみを対照としているため，どこまでが英語という言語文化特有の概念化の反映で，どこまでが人間特有の認知的普遍性を反映したものか，区別が付けにくい。複数の言語を比較対照すれば，順序を認知する際の普遍的制約と文化相対性がいっそう明確になると思われる。

また，Cooper & Ross（1975）では，意味的な原則のみならず，音韻的な原則に関しても検討を加えている。確かに音韻的な原則が言語の線条性に影響を与えることは想像に難くない。一方，対照的，類型論的な研究では，音韻的な原則を加えることが研究の焦点が不明瞭にすることが予測される。このため，意味的な原則のみを対象とした研究が望まれた。

鍋島（2004）では，このような目論見に従い Cooper and Ross（1975）を参考にしながら，研究対象を意味に絞り，日英対照のリサーチを行なった。その結果，原則として Cooper and Ross（1975）が前述の22の分類に再編成された。具体的には以下のような用例が挙がっている（□は日英で順序が逆であることを示す）。

(8) a．inside and outside　内外　　b．up and down　上下
c．arms and legs　手足　　d．before and after　前後
e．morning and evening　朝晩　　f．cause and effect　因果
g．large and small　大小　　h．husband and wife　夫婦
i．parent and child　親子　　j．red and white　紅白
k．near and far　遠近　　l．life and death　生死
m．success or failure　合否　　n．arrival and departure　発着
o．wealth and poverty　貧富

ここでわかったことは，日英語で順序が同じものが予想外に多いという事実

である。この事実は，言語に依存しない意味的な順序傾向が世界に存在する（または解釈する人間の側に存在する）ことを強く示唆する。一方，日英語における対概念の順序が反対になることも少なくなく，このことは世界秩序が100%普遍的でなく，偶然，または文化的相対性に左右されることを示している。日英語で強く語順の一致した項目としては，時間的前後，上下，善悪，能動性などがあった。一方，やや異なる項目として，日本語の場合は，男女に関する順序が固定的であるが英語は例外が多い，日本語は大小に関する順番が固定的，英語と日本語では，行き来に関する表現が反対であるなどがあった。また，例外の興味深いものとして，東西南北，動植物，行き来に関する議論を再録しておく。

東西南北

英語の North, South, East and West は，Up, down, left and right, にほぼ対応し，日本語の東西南北は上下左右と全く対応がないことを見た。実は，英語の North, South, East and West も，Left — Right の順番と East — West の順序が合致していない。

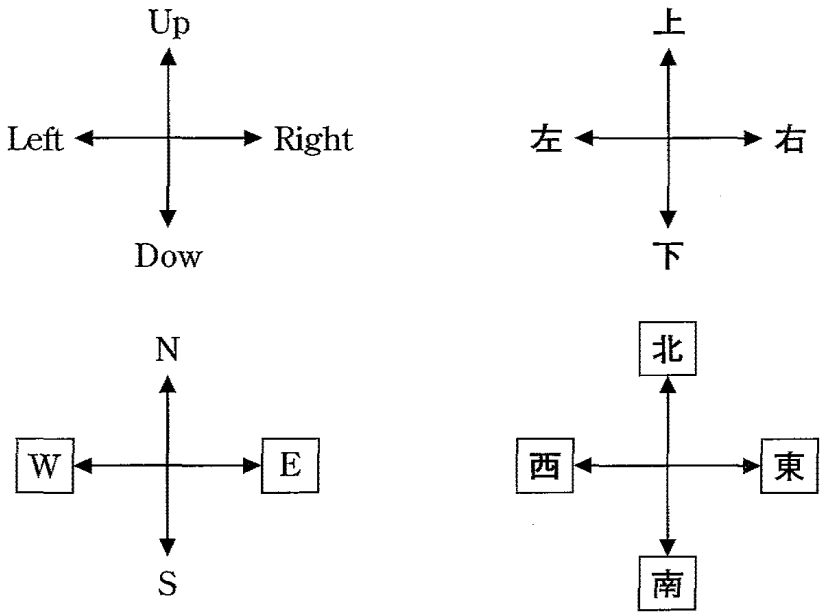

図1　Up, down, left and rightとNorth, South, East and West, 上下左右と東西南北のアラインメント（□は上下左右と方向の不一致を示す）

英語の方角に関する説明の方が簡単である。多分，太陽は東から出て西に沈むという順序が，上下左右との対応よりも優先され，他の部分は上下左右と対応しながら，西と東の順序だけ逆になったのであろう。

日本語の方は，中国と同様の順序であること[5]から中国語の影響が考えられる。中国では，南面思想として，天子は北に座して南を向いているという考え方がある。この考え方によれば，「北」は主観者の存在する位置になり，いわば一種の主観化の過程によって潜在化する。そこで北から見た左右にあたり，太陽が移動する東西がもっとも顕著な方角となるのである。[6]

動植物

Flora and Fauna に関しては，アリストテレス以来，分類学として植物を優先して並べてきた歴史があり（http://home.hiroshima-u.ac.jp/er/ES_K_B1.html），ギリシャローマの学問的背景が西欧の分類に引き継がれていると考えられる。なお，plant と animal の関係は，Flora と Fauna の関係に擬してその順となっているが，Flora and Fauna に比べて固定的ではなく，animals and plants という言い方も増えている。

行き来

行き来に関しては日本語と英語で正反対となっているが，行くという行為と来るという行為を対で考えた場合，来てからまた行くと考えるよりも，「往復」のように「行って戻る」と考える方が自然である。よって日本語の方が自然と思われる。では，どうして，英語文化では逆の概念化が行われているのか。ひとつの可能な説明のは英語が「到達点・達成・結果」重視の言語（池上，1981，1992）であるということである。英語が着点重視の言語であり，日本語

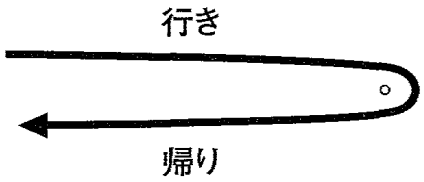

図2　「行き」と「帰り」

	E	(J)
Come	TO HERE	(from AWAY)
Go	TO AWAY	(from HERE)

図3　英語の“come”と“go”の解釈

と異なって，“come”が，“move to here”，“go”が“move to away”など，着点に強調があるとすると，“here”は“away”に優先するため，当然，“come”も“go”に優先することになる。

この傍証として，“here”がプラスの価値評価，“away”がマイナスの価値評価を担っていることが挙げられる。“The room came alive.”“The milk went bad.”などの比喩表現を考えると，“come”はプラス“go”はマイナスのイメージを負うことが多く，これは，“here”と“away”の関係と連動している。

本節では，先行研究として，Cooper and Ross（1975）の研究に触れ，次に鍋島（2004）の用例と議論の一部を確認した。次節では，7言語のデータを必要に応じて取り上げながら，22の原則に関してまとめていきたい。

3．七言語における世界秩序のデータ

前節では先行研究を概観し，世界秩序が多くの場合，通言語的に一定の傾向性を持っていること，一方，文化固有と思われる順序も存在することを観察し，さらに興味深い例外に対して与えられた考察の一部を見た。本節では，Cooper and Ross (1975)，鍋島 (2004) を通して形成された22の原則に従って，日本語（語族不詳），英語（印欧語族ゲルマン語系）以外に，フランス語（印欧語族ロマンス語系），セルビア語（旧ユーゴ，印欧語族スラブ語系），タイ語（タイ語系），中国語（チノ・チベット語系），韓国語（ウラル・アルタイ語族または語族不詳）の7言語である。このデータのサマリー版を別表2に示す。

本節では，まず3.1で，今回の調査の手法を簡単に述べる。次に，3.2で全体的な傾向性について論述する。3.3では22の原則に沿ってコメントを加える。3.4はまとめである。

3.1　調査方法

調査は，2004年4月から2005年6月の間に，それぞれの言語の専門家にスプレッドシートによる調査用紙を送った。その回答例を別表1に示す。調査デー

No.	1．英語	2．日本語	3．Your Language（タイ）	4. Your Language (Alphabetic representation)
1	wealth and poverty	貧富	รวยจน	ruay-con
2	injured either slightly or seriously	重軽傷	บาดเจ็บสาหัสเล็กน้อย	bàat-cèp-sǎahàt-lék-nɔɔy
3	inhale and exhale	吸って吐いて	หายใจเข้าหายใจออก	hǎay-cay-khâw-hǎay-cay-ʔɔɔk
4	arrival and departure	発着	ออกถึง	ʔɔɔk-thɯŋ
5	parent and child	親子	พ่อแม่ลูก	phɔɔ-mɛɛ-lûuk
6	young and old	老若、老いも若きも	หนุ่มสาวแก่	nùm-sǎaw-kɛɛ
7	young and old, men and women	老若 男女（年齢が先）	หนุ่มสาวแก่หญิงชาย	nùm-sǎaw-kɛɛ-yiŋ-chaay
8	reading and writing	読み書き	อ่านเขียน	ʔàan-khian
9	left and right	みぎひだり・左右	ซ้ายขวา	sáay-khwǎa
10	religion and politics	政教	ศาสนากับการเมือง,การเมืองกับศาสนา	sàatsanǎa-kàp-kaan-mɯaŋ, kaan-mɯaŋ-kàp-sàatsanǎa
11	right and duty	権利と義務	สิทธิ์หน้าที่	sìt-nâathîi
12	heat and cold	寒暖	ร้อนหนาว	rɔɔn-nǎaw
13	deep and shallow	深浅	ตื้นลึก	tɯɯn-lɯk
14	count and mass nouns	可算不可算名詞	นามนับได้นามนับไม่ได้	naam-náp-dây-náp-mây-dây
15	father and son	父子	พ่อลูก	phɔɔ-lûuk
16	heavy and light	軽重	หนักเบา	nàk-baw
17	plant and animal	動植物	พืชสัตว์	phɯɯt-sàt
18	singular and plural	単数と複数	เอกพจน์พหูพจน์	ʔèekkaphót-pháhuuphót
19	near and far	遠近	ใกล้ไกล	klây-klay
20	joys and sorrows	苦楽	ทุกข์สุข	thúk-sùk
21	cities, towns and villages	市町村	หมู่บ้านตำบลอำเภอ	mùubâan-tanbon-ʔamphɔɔ
22	plus or minus	プラスマイナス	บวกลบ	bûak-lóp
23	past, present and future	現在、過去、未来	อดีตปัจจุบันอนาคต	ʔadìit-pàtcuban-ʔanaakhót
24	past and present	過去と現在	อดีตปัจจุบัน	ʔadìit-pàtcuban
25	hard and soft	硬軟	แข็งอ่อน	khɛŋ-ʔɔɔn
26	home and away	本拠地と敵地		
27	near and far	遠近	ใกล้ไกล	klây-klay
28	local and state	州と地方		
29	heat and cold	寒暖	ร้อนหนาว	rɔɔn-nǎaw
30	home and foreign	国内外	ในประเทศนอกประเทศ	nay-prathêet-nɔɔk-prathêet
31	horse and carriage	馬車	รถม้า	rót-máa
32	actor and action	行為と行為者	ตัวกระทำการกระทำ	tua-kratham-kaan-kratham
33	agent and patient	動作主と被動作主		
34	hot and cold	冷たい熱い	ร้อนเย็น	rɔɔn-yen
35	right and wrong	正誤	ถูกผิด	thùuk-phìt

別表１（タイ語の例）

タは日英語の169対に対応するそれぞれの言語における表現である。調査項目としては，日英語の169対の例に関して，それぞれの言語において，①対応する表現，②表現のアルファベット表記，③英語の順序と合致しているかいない

か，および④必要に応じたコメントの四項目を記入していただいた。また，それぞれの回答に対し，必要に応じて質疑を電話やメールでフォローアップした。この結果をまとめたのが別表2である。

別表2は別表1の回答をサマリーしたもので，左から順[7]，英語，フランス語，セルビア語，タイ語，中国語，韓国語，日本語，連番，原則グループ番号の順番になっている。0は，原則の順序と同じことを示し，1は異なることを示す[8]。また，1（異なる）の場合，網掛けしてある。空欄は，無回答か，対応する表現がない，揺れがあるなどの場合である。別表2の最後の欄には，英語との相違の数および日本語との相違の数をそれぞれ記入してある。

3.2 全体の傾向

全体の傾向としては，序論で述べたように，二つの傾向性が存在した。文化的グループの存在，安定性の高い順序の存在である。以下に小節を設置して確認する。

3.2.1 文化的グループの存在

まず，全体をまとめた中でいくつかの興味深い事実調査は，はっきりとグループに分かれたことである。別表2の最下2欄をご覧いただきたい。英語との差異を調べると，フランス語が最も近く（9）ついでセルビア語（19），タイ語（20）となっており，中国語，韓国語，日本語は50以上とそれぞれ1/3近くが異なった順序となっている。一方，日本語との差異を見ると，韓国語が最も近く，日本語とほとんど同一の順序といってもよく（6），中国語もかなり近い（19）。タイ語，セルビア語，フランス語，英語はそれぞれ50前後の差異がある。

この傾向を見る限り，英語，フランス語，セルビア語という印欧語族のグループと，中国，韓国，日本語という東アジアのグループがはっきりと別れる。前者は系統的（言語族による）分類であるが，中国語は韓国語や日本語と語族が異なり，韓国語と日本語も同一の語族であるという考え方は主流ではないの

世界秩序（World Order）序説（鍋島）

提示順	英語	日本語	順	英	仏	セ	タイ	中	韓	日	No.	Group
146	before and after	（時間的）前後	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
36	morning and evening	朝晩	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
140	today and tomorrow	今日明日	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1
152	beginning and end	始まりと終わり	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1
64	Introduction, development, and rapid finale	序破急	0	0		0			0	0	5	1
69	Introduction, development, turn and conclusion	起承転結	0	0		0		0	0	0	6	1
43	sooner or later	遅かれ早かれ	0	0	0	0		1	1	1	7	1
154	cause and effect	原因と結果（因果）	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1
23	past, present and future	現在、過去、未来	0	0	0	0	0	1	0	1	9	1
90	past and present	過去と現在	0	0	0	0	0	0	0	0	10	1
71	old and new	新旧	0	0	1	0	0	1	1	1	11	1
147	young and old	老若	1	1	1	1	1	0	0	0	12	1
86	front and back	前後	0	0	0	0	0	0	0	0	13	2
41	front and rear	(空間的)前後	0	0	0	0	0	0	0	0	14	2
94	up and down	上下	0	0	0	0	0	0	0	0	15	3
54	tall and short	高低	0	0	0	0	0	0	0	0	16	3
165	high and low	高低	0	0	0	0	0	0	0	0	17	3
108	heaven and earth	天地	0	0	0	0	0	0	0	0	18	3
75	hands and feet	手足	0	0	0	0	0	0	0	0	19	3
156	arms and legs	手足	0	0	0	0	0	0	0	0	20	3
99	ear, nose and throat	耳鼻咽喉	0	0	0	1	1	0	0	0	21	3
160	north, south, east and west	東西南北	0	0	0	1	0	1	1	1	22	3
9	left and right	みぎひだり・左右	0	0	1	0	0	0	0		23	4
125	length and breadth	縦横	0	0	0	0	0	0	0	0	24	5
85	up, down, left and right	上下左右	0	0	0	0	0	0	0	0	25	5
127	lower right	右下	0	0	0	0	1	1	1	1	26	5
113	upper right	右上	0	0	0	0	1	1	1	1	27	5
76	lower left	左下	0	0	0	0	1	1	1	1	28	5
101	upper left	左上	0	0	0	0	1	1	1	1	29	5
150	Northwest	北西（地域）	0	0	0	0		1	0	0	30	5
167	Southeast Asia	東南アジア	0	0	1	0	0	1	1	1	31	5
55	in and out	内外	0	0	0	0	0	0	0	0	32	6
153	inside and outside	内側と外側	0	0	0	0	0	0	0	0	33	6
30	home and foreign	国内外	0	0	0	0	0	0	0	0	34	6
3	inhale and exhale	吸って吐いて	0	0	0	0	0	0	0	0	35	6
118	open and shut	開閉	0	0	0	0	0	0	0	0	36	7
57	center and periphery	中心と周辺	0	0	0	0	0	0	0	0	37	8
122	cities, towns and villages	市町村	0	0	0	1	1	0	0	0	38	8
38	state and federal	連邦と州	0	0		0	0	1	1	1	39	8
102	local and state	州と地方	0	0		0		1	1	1	40	8
77	good and bad	善悪	0	0	0	0	0	0	0	0	41	9
35	right and wrong	正誤	0	0	0	0	0	0	0	0	42	9
49	advantage and disadvantage	優劣	0	0	0	0	0	0	0	0	43	9
51	(socially) high and low	貴賤	0	0	0	0	0	0	0	0	44	9
158	success or failure	合否	0	0	0	0	0	0	0	0	45	9
70	approval or disapporoval	賛否	0	0	0	0	0	0	0	0	46	9
96	likes and dislikes	好き嫌い	0	0	0	0	0	0	0	0	47	9
132	fortunately or not	幸か不幸か	0	0	0	0	0	0	0	0	48	9
145	pro and con	利点と欠点	0	0	0	0	0	0	0	0	49	9
22	plus or minus	プラスマイナス	0	0	0	0	0	0	0	0	50	9
50	life and death	生死	0	0	0	0	0	0	0	0	51	9
120	live or die	生きるか死ぬか	0	0	0	0	0	0	0	0	52	9
115	all or none	いちかばちか	0	0	0	0		0	0	0	53	9
92	good and bad luck	吉凶	0	0	0	0	0	1	0	0	54	9
11	right and duty	権利と義務	0	0	0	0	0	0	0	0	55	9

提示順	英語	日本語	順	英	仏	セ	タイ	中	韓	日	No.	Group
20	joys and sorrows	苦楽	0	0	0	0	1	1	1	1	56	9
1	wealth and poverty	貧富	0	0	0	0	0	1	1	1	57	9
84	dead or alive	生死（にかかわらず）	1	1	1	0	0	0	0	0	58	9
46	at home and abroad	国内外	0	0	0	0	0	0	0	0	59	10
144	here and there	あちこちに	0	0	0	0	0		0	1	60	10
109	United States and Canada	日米	0	0	0	0		0	0	0	61	10
63	this and that	あれやこれ	0	0	0	0	0	0	0	1	62	10
73	Yale-Harvard game	上南戦、早慶戦	0	0				0	0	0	63	10
19	near and far	遠近	0	0	0	0	0	1	1	1	64	10
26	home and away	本拠地と敵地	0	0		0		0	0	0	65	10
107	friend or foe	敵味方	0	0	0	0	0	0	0	0	66	10
164	tomorrow and the day after	明日あさって	0	0	0	0	0	0	0	0	67	10
114	yesterday and the day before	昨日、一昨日（？）	0	0	0	0	0	0	0	0	68	10
24	past and present	過去と現在	0	0	0	0	0	0	0	0	69	10
62	past, present and future	現在過去未来	1	1	1	1	1	0	0	0	70	10
40	son and grandson	子孫,孫子（の代まで）	0	0	0	0	0	0	0	0	71	10
74	father and grandfather	父と祖父	0	0	0	0		0	0	0	72	10
126	you and I	自他	1	1	1	0	1	1	0	0	73	10
162	flora and fauna	動植物	1	1	1	1	1	0	0	0	74	10
17	plant and animal	動植物	1	1	0	1	1	0	0	0	75	10
45	state and federal	連邦と州	0	0		0	0	1	1	1	76	10
139	local and state	州と地方	0	0	0	0		1	1	1	77	10
124	lord and devil	神と悪魔	0	0	0	0	0	0	0	0	78	11
149	God and man	神と人間	0	0	0	0	1	0	0	0	79	11
87	heaven and hell	天国と地獄	0	0	0	0	1	0	0	0	80	11
117	church and state	政教(分離)	0	0	0	0		1	1	1	81	11
10	religion and politics	政教	0	0	0	0		1	1	1	82	11
15	father and son	父子	0	0	0	0	0	0	0	0	83	12
93	mother and daughter	母子	0	0	0	0	0	0	0	0	84	12
5	parent and child	親子	0	0	0	0	0	0	0	0	85	12
6	young and old	老若、老いも若きも	1	1	1	0	1	0	0	0	86	12
80	man and woman	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	87	13
98	male and female	男性と女性	0	0	0	0	0	0	0	0	88	13
100	boy and girl	少年少女	0	0	0	0	0	0	0	0	89	13
112	brother and sister	兄弟や姉妹	0	0	0	0		0	0	0	90	13
121	boyfriend and girlfriend	彼氏彼女	0	0	0	0		0	0	0	91	13
116	king and queen	王と女王	0	0	0	0	0	0	0	0	92	13
97	Mr. and Mrs.	夫婦	0	0		0	0	0	0	0	93	13
42	husband and wife	夫婦	0	0	0	0	0	0	0	0	94	13
37	bride and groom	新郎新婦	1	1	0	1	0	0	0	0	95	13
65	ladies and gentlemen	紳士・淑女	1	1	1	1	0	0	0	0	96	13
88	mother and father	お父さん・お母さん	1	1	1	0	1	0	0	0	97	13
151	mon and dad	父母	1	1	1	1	1	0	0	0	98	13
89	duck and drake		0	0			1				99	13
161	goose and gander		0	0	0		0				100	13
58	age and sex	年齢性別	0	0	0	0	0	0	0	0	101	14
7	young and old, men and women	老若男女	0	0	0	0	0	1	1	0	102	14
104	come and go	行き来	0	0	1	0	1	0	1	1	103	15
106	entrance and exit	出入り(口)	0	0	0	0	0	1	1	1	104	15
4	arrival and departure	発着	0	0	0	0	1	1	1	1	105	15
105	buying and selling	売買	0	0	0	0	0	0	1	1	106	15
143	back and forth	往復	0	0	0	1		1	1	1	107	15
131	large and small	大小	0	0	0	1		0	0	0	108	16
168	many and few	多少	0	0	0	0	0	0	0	0	109	16
67	more and less	多少	0	0	0	1		0	0	0	110	16
142	increase and decrease	増減	0	0	0	0	0	0	0	0	111	16
13	deep and shallow	深浅	0	0	0	1	1	0	0	0	112	16
130	tall and short	高低	0	0	0	0	0	0	0	0	113	16
136	long and short	長短	0	0	0	0		0	0	0	114	16
25	hard and soft	硬軟	0	0	0	0	0	1	0	0	115	16

世界秩序（World Order）序説（鍋島）

提示順	英語	日本語	順	英	仏	セ	タイ	中	韓	日	No.	Group
119	wide and narrow	広狭	0	0	0	0	0	0	0	0	116	16
159	easy and difficult	難易	1	1	1	1	1	0	0	0	117	16
60	part-whole	全体と部分	1	1	1	0	1	1	0	0	118	16
27	near and far	遠近	1	1	1	1	1	0	0	0	119	16
103	small, medium or large	大中小	1	1	1	1	1	0	0	0	120	16
141	small, and medium-sized co.	中小企業	1	1	1	1	1	0	0	0	121	16
21	cities, towns and villages	市町村	0	0	0	1	1	0	0	0	122	16
134	state and federal	連邦と州	1	1		1	1	0	0	0	123	16
28	local and state	州と地方	1	1		1		0	0	0	124	16
2	injured either slightly or seriously	重軽傷	1	1	1	0	0	1	0	0	125	16
16	heavy and light	軽重	0	0	0	1	0	1	1	1	126	16
157	public and private	公私・義理と人情・本音と建前	0	0	0	0	0	0	0	0	127	17
138	word and deed	言うは易し行うは難し	0	0	0	0	0	0	0	0	128	18
56	knowledge and action	知識と行動	0	0	0	0	0	0	0	0	129	18
148	form and substance	形式と内実	0	0	0	0	0	0	0	0	130	18
91	general and particular	一般と特殊	0	0	0	0	0	0	0	0	131	18
48	abstract and concrete	具象と抽象	0	0	1	1	1	0	1	1	132	18
72	red and white	紅白	0	0	0	0	0	0	0	0	133	19
81	black and white	白黒	0	0	0	0	0	0	0	1	134	19
34	hot and cold	冷たい熱い	0	0	0	0	0	1	1	1	135	19
12	heat and cold	寒暖	0	0	0	0	0	1	1	1	136	19
52	hunter and hunted	狩人と獲物	0	0	0	0	0	0	0	0	137	20
163	employer and employee	雇用者と被雇用者	0	0	0	0	0	0	0	0	138	20
68	cat and mouse	猫とネズミ	0	0	0	0	0	0	0	0	139	20
129	speaker and hearer	話し手と聞き手	0	0	0	0	0	0	0	0	140	20
78	subject and object	主語と目的語	0	0	0	0	0	0	0	0	141	20
33	agent and patient	動作主と被動作主	0	0	0	0		0	0	0	142	20
32	actor and action	行為と行為者	0	0	0	0	0	1	1	1	143	20
111	car and driver	車と運転手	0	0	0	0	0	0	0	0	144	20
66	bourbon and Coke	焼酎のお湯割り	0	0		0			0	0	145	20
128	gin and tonic	ジントニック	0	0	0	0		0	0	0	146	20
31	horse and carriage	馬車	0	0	0	0		0	0	0	147	20
44	bow and arrow	弓矢	0	0	0	0	1	0	0	0	148	20
137	sun and moon	太陽と月	0	0	0	0	0	0	0	0	149	20
83	one or two	1か2	0	0	0	0	0	0	0	0	150	21
110	once or twice	一度や二度は	0	0	0	0	0	0	0	0	151	21
166	first and second	一番と二番	0	0	0	0	0	0	0	0	152	21
39	monotheism and polytheism	一神教と多神教	0	0	0	0	0	0	0	0	153	21
18	singular and plural	単数と複数	0	0	0	0	0	0	0	0	154	21
123	unidirectional and bidirectional	単方向と双方向	0	0	0	0		0	0	0	155	21
61	Mick Jagger and the Rolling Stones	山本コータローとソルティーシュガー	0	0		0			0	0	156	21
135	Army and Navy	陸軍と海軍	0	0	0	0	0	0	0	0	157	22
14	count and mass nouns	可算不可算	0	0	0	0	0	0	0	0	158	22
169	space and time	時空	0	0	0	0	0	1	1	1	159	23
95	here and now	今ここで	0	0	0	1	0	1	1	1	160	23
133	food and drink	飲食物	0	0	0	0	0	0	1	1	161	23
155	food, clothing, and shelter	衣食住	0	0	1	0	0	0	1	1	162	23
82	hot and cold	ホットとアイス	0	0	0	0	0	1	0	0	163	23
53	winter, spring, summer, and fall	春夏秋冬	0	0	1	1		1	1	1	164	23
29	heat and cold	寒暖	0	0	0	0	0	1	1	1	165	23
8	reading and writing	読み書き	0	0	0	1	0	0	0	0	166	23
79	nouns and verbs	名詞と動詞	0	0	0	0	0	0	0	0	167	23
47	sooner or later	遅かれ早かれ	0	0	0	0		1	1	1	168	24
59	son and grandson	孫子の代まで	0	0	0	0	0	0	1	1	169	24
170		英語との相違の総計		0	9	19	20	51	54	58		
		日本語との相違の総計		58	46	53	47	16	6	0		

別表２　７言語集計一覧

で，後者は，文化圏によるグループと考えざるを得ない。

その点から興味深いのはタイ語であり，語族は独立したアジアの言語であるが，世界秩序の面から見ればどちらかというと印欧グループに近い。これは今後，言語数を増やしてみることによってなんらかの説明が可能になるかもしれない。

3.2.2　安定性の高い順序の存在

次に興味深かったのは，特定のカテゴリーはかなりの部分言語普遍的であったことである。これらは，時間的前後，上下，内外，善悪，顕現性(動作主)，顕現性（単複）である。言語は発話によって実時間の中に展開するため，時間軸上で先にくるものを発話の際に先に述べる方が自然であることは想像に難くない。また，上下軸は非対称性の明瞭な軸で重力のために上から下へという方向性が顕著である。内外，善悪，単複もデータを見る限り通言語的に安定性の高い順序である。また，動作主が前にくるというのは，類型論的にほとんどの言語で主語が目的語よりも前にくる（S→O）という事実に対する説明のひとつとなる。

3.3　22の原則とコメント

本小節では，22の原則とそれぞれの傾向に対して少しずつ取り上げてコメントする。

1．BEFORE-AFTER〈(時間的）前後の原則〉

ここには，時間の推移を示す語以外に，序破急などの事象の順序が入る。また，「原因と結果」も原因が常に結果に先立つという意味でこのグループに加えた。先に述べたように時間的原則は非常に安定性が高い。例外は，「新旧」と「遅かれ早かれ」でこれらはアジアグループの三言語で同じだった。「新旧」は中国語で「新舊」，韓国語で，「신구（sin-gu)」，「遅かれ早かれ」は中国語で「遲早」，韓国語で「조만간（jo-man-gan)」である。

2．FRONT-BACK〈(空間的）前後の原則〉

空間的な前後に関する原則でも「前」が優先し，この原則も７言語で例外は存在しなかった。

3．UP-DOWN〈上下の原則〉

空間的な上下では必ず上が優先する。身体の部分も立った状態で上に来るものが優先する。《北は上である》というメタファー（鍋島，2003）は一般的であるので，方向もこの項目に入れることにするが，東西南北が日英で異なることは，先行研究で見た通りである。英語，フランス語（nord, sud, est et ouest），タイ語（เหนือใต้ออกตก：nɯa-tâay-ʔɔɔk-tòk）は，北南東西と上下左右と合致しているが，西東の順が，多分太陽の運行に影響されて反転している。日本語，韓国語，中国語は，東西南北で一致しているが，中国語の標準的な表現は東南西北である。セルビア語（istok, zapad, sever, jug）では，日本語に近いが，東西北南と，北と南の順が入れ替わっている。いずれにせよ，東が西よりも前に来るのは太陽の運行の時系列的順序が影響を与えていると考えられる。

4．LEFT-RIGHT〈左右の原則〉

日本語でも「左右（さゆう）」と「みぎひだり」が存在し，英語でも，307件対144件とある程度両立する。これは，人間の左右が対称的であることを考えると納得できる。現代社会では，グラフ，機器の操作など左から右が多いようである（鍋島，2003）。フランス語（droite et gauche）は右の方が前に来る。法律，権利といった肯定的な意味合い有する droite が前に来るのは後の善悪の原則と絡めて興味深い。

5．VERTICAL-HORIZONTAL〈縦横の原則〉

上下の原則と左右の原則が並置される場合には，上下が優先される。これは上下軸が非対称性の明らかな軸であり，左右が対称的で双方向なところから納得できる。一方，軸自体ではなく，個々の要素の組み合わせとなる場合，日本語では左右軸が優先（下右ではなく，右下）し，今回，これが中国語（右下），韓国語（오른쪽 아래：o-reun-jjok-a-rae）と共通していることがわかった。

6．IN-OUT〈内外の原則〉

中が外に優先する。今回集めたデータではこの原則に例外はなかった。

7．OPEN-SHUT〈開閉の原則〉

開いている方が閉じている方に優先する。今回集めたデータではこの原則に例外はなかった。

8．CENTER-PERIPHERY〈中心周辺の原則〉

中心と周辺では中心が優先される。英語の“state and federal”の例では，どちらの順も可能である。

9．GOOD-BAD〈善悪の原則〉

良いものと悪いものでは良いものが系統的に優先される。この原則には豊富用例があり，ほとんどが全言語にわたって例外なく評価性の高い概念が前にくる。例外は，joys and sorrowsと苦楽，wealth and povertyと貧富である。これらの場合それぞれ，中国語（苦樂，貧富），韓国語（고락：go-rak、빈부：bin-bu）と日本語と軌を一にしている。逆に，英語が例外なのは，dead or alive，また，中国語が例外なのは，「凶吉」である。

10．HERE, NOW, I〈「今，ここ，私」の原則〉

「今，ここ，私」というdeixis（ダイクシス・場面指示性・直示性）の原則は，時間の原則，大きさの原則などと対立する場合がある。慶応では早慶戦を慶早戦というように[9]自分の所属するグループが先に述べられるのもこれに含む。動物と植物もこの原則に従えば，人間のカテゴリーを含む動物が前に来る[10]ことになるが，英語の“flora and fauna”，“plants and animals”は前述のように歴史的な過程がある。

興味深い用例としては，「遠近」が日中韓すべて大小，長短と同じ仲間に入るのに対し，「あちこち」「あれこれ」で遠くが先にくるのは日本語だけであることである。「こそあど言葉」といった言い方もあり，近いほうを前にする概念化は日本人にとっても不思議ではないので，「あれこれ」「あちこち」などには日本語特有の音韻的要因があるのではないかと思われる。また，you and Iと「自他」の例では，日本語と韓国語が軌を一にしているのに対し，中国語は

「你我」と相手を先においている。このあたり，英語と中国語が同じSVO言語であることの影響があるのかもしれない。セルビア語は逆にja i tiと日本語と同様の語順になっている。

11. DIVINE-HUMAN〈神の原則〉

「悪魔と神」というサルトルの有名な著書があるにもかかわらず，フランス語を含めて，神は系統的に優先される[11)]。ただし，「政教」という語順では，政治と教会であれば東アジアのグループで政治の方が重要であるのは想像に難くない。

12. OLD-YOUNG〈親子の原則〉

親子関係などでは常に親が優先され，生まれた時という時間関係，親から子が生まれるという因果関係を考えれば自然である。若い人々と年配の人々という意味では，英語（young and old：フレッシュアイの検索で140対36），フランス語（jeune et vieux），タイ語（หนุ่มสาวแก่：nùm-sǎaw-kɛɛ）で逆転している。セルビア語（i staro i mlado）は日中韓と同じ高年齢→低年齢となっており，年齢層の関係をどう見るか社会文化的構築の差だろうが興味深い。

father and son　父子　　mother and daughter　母子　　parent and child　親子
cat and kitten　　cow and calf　　man and boy　　mare and foal
young and old（140：36）　老若，老いも若きも

13. MALE-FEMALE〈男女の原則〉

Ladies firstという表現があるにもかかわらず，男性が女性より優先されるのは英語でも日本語でも同様であるが，東アジアグループにとって圧倒的に強固な原則となっている。英語における例外は，女性が重要となる結婚（bride and groom）子育て（mom and dad, mother and father），および階級が関連すると思われる例（ladies and gentlemen）であるが，フランス語では，新郎新婦（le marie et la mariee），父母（pere et mere）が，男女の順，淑女紳士（mesdames et messieurs），ママとパパ（maman et papa）が女男の順である。

セルビア語では，父母（otac i majka）は男女順，ママとパパ（mama i tata）は女男順であるがいずれも逆転可であるという。新郎新婦，淑女紳士はそれぞれ，女男の順である。さらにタイ語は，父母に関するもののみ（พ่อแม่：phɔɔ-mɛɛ）が，逆転している。

14. AGE-SEX〈年齢性別の原則〉

年齢の原則と性別の原則間の用例は少ないが，「年齢」→「性別」の順序のようであるが，韓国語（남녀노소：nam-nyeo-no-so），中国語（男女老少）では逆転している。

15. COME-GO〈行き来の原則〉

deixis（ダイクシス・場面指示性・直示性）を含む移動であるこのカテゴリーは大変混乱した様相を示している。一般的には，英語，フランス語，セルビア語，タイ語では「来る」方が先に来る。売買を例にとれば，英語（buying and selling），フランス語（achat et vente），セルビア語（kupovina i prodaja），タイ語（ซื้อขาย：sɯɯ-khǎay）とすべて同じになっている。一方，日本語と韓国語では系統的に「出る」方が先に来る。

興味深いのは，この代表的な用例である「行き来」である。英語（come and go），セルビア語（dolaziti i odlaziti），中国語（來去）がCOME-GOの順番，フランス語（aller et retour），タイ語（ไปมา：pay-maa），日本語，韓国語（가고 옴：ga-go-om）がGO-COMEの順番である。単なる偶然であれば残念だが，語順，社会慣習等なんらかの言語または認識的特徴と相関がある可能性もあり，今後の調査が期待される。

16. LARGE-SMALL〈大小の原則〉

大小，多少，増減，深浅，高低，長短，硬軟，広狭などに関する原則である。東アジアグループでは系統的に大きいものが優先される。印欧グループおよびタイ語ではかなり例外が見られる。英語でもlarge and smallであれば，大小の原則に沿っているが，small, medium, largeとなると順番が逆転する。さらに，easy and difficult（易しい難しい），slightly or seriously injured（軽症，重症）のように評価性が関連すると悪いものが後ろに来ることが見て取れる。東アジ

アグループでほとんど唯一の例外は，軽重（中国語：輕重，韓国語：경중：gyong-jung）でこの理由はわからない。

17. PUBLIC-PRIVATE〈公私の原則〉

用例が少ないが全言語において「公私」の順になっていることが観察された。

18. GENERAL-SPECIFIC〈一般特殊の原則〉

思考を行為に移すような場合には一般が「思考」が「行動」に優先する。それ以外は傾向がやや緩やかである。

word and deed　いうは易し行うは難し　　knowledge and action　知識と行動
form and substance　形式と内実　　general and particular　一般と特殊
abstract and concrete　具象と抽象（303：261）

以下に，顕現性（Salience）に関する4つの原則を挙げる。上述の中にも顕現性と呼べる現象（上は下よりも顕現性が高いなど）は存在するがここではその他のものとする。また，顕現性も多種存在するように思われたので，ここでは4つのカテゴリーに分けて紹介する。

19. SALIENT（intense）〈顕現性の原則（強い刺激）〉

色や温度などの大きい方が優先する。今回の多言語の比較から，「白黒」という日本語の例は例外であるとわかった。温度に関しては，印欧グループおよびタイ語が熱いものを先にいうのに対し，東アジアグループは系統的に冷たいものを先にいう。

red and white　紅白　　black and white　白黒（229197：17095）
hot and cold　冷たい熱い？　　heat and cold　寒暖

20. SALIENT（active power）〈顕現性の原則（能動性）〉

物理的，比喩的な意味で力を持つ参与者は受け身の参与者に対して優先する。この原則は意外にも非常に強固で例外はほとんどない。能動性は力であり，力は作用で，物事の原因となることから，出来事の始点となるためであると考えられる。唯一の例外は「行為と行為者[12)]」で，中国語（行為與行為者），韓国語（행위와 행위자：haeng-wi-wa-haeng-wi-ja）でも日本語と同様の傾向が

観察された。これは〈モノ〉的言語と〈コト〉的言語（池上，1981）の観点からも興味深い。

21. SALIENT（one-many）〈顕現性の原則（単複）〉

one or two（1か2） once or twice（一度や二度は） first and second（一番と二番）など数字の1は2に優先し，単体は複数から成るグループに常に優先する。

22. SALIENT（solid）〈顕現性の原則（個体性）〉

earth, air, fire and water, land and sea, count and mass nouns（可算不可算）など固体は液体よりも領域が特定しやすいと思われ顕現性の点から優先される。

3.4 三節のまとめ

本節では，まず3.1で今回の調査の手法を簡単に述べ，次に，3.2で全体的な傾向性（①言語文化グループに分けることができること②強固な傾向性を持つ原則の存在）について論述した。前小節である3.3では22の原則にそって簡単に用例を紹介した。個別言語の事情による例外も存在するが，一般的には，通言語的に安定した原則と言語グループによって異なる原則の二つに分けることができるように思われた。その中で，セルビア語は例外的に東アジアグループと同じ傾向を持ち，中国語は稀に印欧語族グループと同じ傾向を示した。また，タイ語は多くの場合印欧語グループに似たデータを示したが，これが，言語一般的な傾向で東アジアグループが例外的なのか，それとも，タイ語がなんらかの言語接触などによって，印欧語族に似た傾向を持つに到ったのか，あるいは偶然の産物なのかといったことはここまでのデータでは明らかにはならない。また，「行き来」のデータは予測不可能な様相を示しており，これも今後の研究が望まれる分野である。ここまでの流れを受けて，次節で全体のまとめを行う。

4．まとめ

本稿では，Cooper and Ross（1975）の世界秩序に関する先駆的研究を日英対照で行った鍋島（2004）を受けて，フランス語，セルビア語，タイ語，中国語，韓国語の専門家の多大なる協力を得て多言語比較の類型論的研究に発展させたものである。

導入である第１節に続き，第２節では，類像性研究の先行研究を簡単にまとめ，第３節では，今回の調査の形式と手順を概説し，データを紹介するとともに傾向に関する考察を行った。世界秩序（言い換えれば自然界における順序）の研究を類型論的に行うことで，世界に存在する多数の順序が，どれくらい普遍的なのか，どれくらい文化依存的なのかに対する視座が提供できる。

22の原則のうち，用例も多く重要なもので通言語的に安定した原則は，以下の６つであった。

1．BEFORE-AFTER〈(時間的）前後の原則〉
3．UP-DOWN〈上下の原則〉
6．IN-OUT〈内外の原則〉
9．GOOD-BAD〈善悪の原則〉
20. SALIENT（active power）〈顕現性の原則（能動性)〉
21. SALIENT（one-many）〈顕現性の原則（単複)〉

東アジアグループでは強固であるが，欧米のグループで例外が多かったのは以下の３つの原則である。

12. OLD-YOUNG〈親子の原則〉
13. MALE-FEMALE〈男女の原則〉
16. LARGE-SMALL〈大小の原則〉

印欧グループで比較的安定していたのは以下のグループである。

10. HERE, NOW, I〈「今，ここ，私」の原則〉
11. DIVINE-HUMAN〈神の原則〉

さらに，両グループの対立が見られ，それ以外にも大変複雑なデータを示したのは以下の原則である。

15. COME-GO〈行き来の原則〉

本稿の研究によって可能となる研究方向性を簡単に再録すれば，①究極的に文法（SVOなど）の動機づけを探る営み，②順序の身体的または環境的動機づけ，すなわち認知の制約を探る営み，③言語の普遍性と文化相対性の問題の検討に貢献，④メタファーが如何に文法に反映するかを研究する鍵，の4点であった。今回の研究の結果，このプロジェクトが特に③に関連して文化的類似性を判定する指標として使用できるのではないかという目算が高まった。

今回は，データの収集，観察とその簡単な分析にとどまったが，今後必要な研究課題としてはこれらを説明する分析の精緻化，統計の使用，モデルの作成などが挙げられよう。例えば，二つの原則が衝突した際どのような結果が生まれるのか。(9)のような場合，どちらが結果として生じ，両立する際，それはどのような条件に左右されるのか。使用頻度はどのように関わるのか。

(9) a．過去，現在，未来　←〈時間の原則〉に従った順序
　　b．現在，過去，未来　←「現在」に関して〈「今，ここ，私」の原則〉に従った順序

慣習化はどの時点でどのように働くのか。同じような用語の他のパターン（「大小」といった語彙化したスキーマ的パターン）にどのように影響を受けるのか

などさまざまな考察をもとに具体的なモデルの提案が待たれよう。

また，こういった課題を進めるにあたって興味深い具体的な検討課題としては以下の二つが挙げられる。まず，タイ語の位置づけである。第3節のまとめで述べたように，東アジアグループが例外的なのか，タイ語がなんらかの理由で印欧語グループに入っているのか。これはさらに言語数を拡げれば判別できる可能性がある。第2の検討課題は，「行き来」の類型論的検証である。「行き来」「往復」「やりもらい」「売買」などの例において系統性は見られるのか。見られるとすれば，どのような素性と相関を持つのかなどは，今後興味深い課題である。

注

1）本研究は平成16年度関西大学学術研究助成金の助成を受けている。
2）山梨（1995, 2000）を参照。
3）フランス語は大久保朝憲氏，セルビア語はドラガナ・シュピカ氏，タイ語は佐藤博史氏，中国語は呂佳蓉氏，韓国語は金ジュヨン氏に御判断いただいた。この場をお借りして感謝の辞を述べさせていただきたい。もちろん本稿の不備な点は筆者の責任によるものである。
4）この研究例をご教示いただいた仲本康一郎氏に感謝したい。
5）呂佳蓉氏私信。なお関西大学の陶徳民先生から東西南北と東南西北の2つの順序があることが指摘された。合わせて感謝したい。
6）同様のことは「東南西北」という順序に関してもいえる。
7）原則グループに近い順番。0は英語と同じ，1は英語が原則と異なることを示す。1の場合，すべての回答の同異を反転させた。
8）なお，原則に一定の揺れがある場合は，英語の方を0にしてある。
9）篠原俊吾先生のご教示による。早慶戦と慶早戦の両方が使用されるらしい。
10) Sliverstein (1976) の Animacy Hierarchy など共感の階層のこの原則に含まれるだろう。
11) Lakoff and Turner (1989) にある the Great Chain of Being は，〈神の原則〉と上述の Animacy Hierarchy を接合したものと考えることができる。
12) 行為者は行為から派生した語であるから当然この順になるという議論は成り立つが，行為者が行為から派生すること自体が行為を一義的に考えていることになるという議論も成り立つ。

基本文献

Anderson, Earl R. 1998. *A Grammar of Iconism*. London: Associated University Presses.

Cooper, W., and J.R.Ross. 1975. "World Order." In Grossman and Vance 1975. *Papers from Parasession on Functionalism*. Chicago: Chicago Linguisitics Society (CLS).

Haiman, John. 1985a. *Iconicity in syntax*. Amsterdam: John Benjamins.

——— 1985b. *Natural syntax*. Cambridge: Cambridge University Press.

Lakoff, George. 1996. *Moral politics. — What conservatives know and liberals don't*. Chicago: The University of Chicago Press.

Lakoff, George and Mark Johnson. 1980. *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press.

Lakoff, George and Mark Turner. 1989. *More than cool reason: a field guide to poetic metaphor*. Chicago: University of Chicago Press.(大堀俊夫訳『詩と認知』, 紀伊国屋書店, 1994年)

Silverstein, Michael 1976. "Hierarchy of features and ergativity,." in Dixon, R.W.ed., *Grammatical categories in Australian languages*. 112-71. New York: Garland.

池上嘉彦　1981.『「する」と「なる」の言語学』大修館書店

——— 1992.『詩学と文化記号論』講談社学術文庫

鍋島弘治朗　2003.「言語学的アラインメント試論—写像（mapping）の骨格としての整列（alignment）—」『英文学論集』第43号　関西大学英文学会

——— 2004.「線条的類像性（Linear Iconicity）—自然界の秩序と語順のマッピングに関する日英対象研究」『認知言語学論文集』第4巻

大堀俊夫　1991.「文法構造の類像性」日本記号学会編『かたちとイメージの記号論』（記号学研究11）

——— 1992a.「イメージの言語学」『月刊言語』大修館書店

——— 1992b.「言語記号の類像性再考」日本記号学会編『ポストモダンの記号論』（記号学研究12）

瀬戸賢一　1995.『空間のレトリック』海鳴社

山林由佳　2003.「Order—日英における語順の違い—」『Forum』関西大学英文学会

山梨正明　1995.『認知文法論』ひつじ書房

——— 2000.『認知言語学原理』くろしお出版